

の製造量
6製
北材
東合

初の400万t割れ

日合協東北
ま
と
め
24年度は374.6万t

日本アスファルト合材協会（前年同期比0.4%増）、再生260.6万t（9.7%減）。1年の総製造量が400万tを下回るのは初めてで、1980年に統計を開始してから最低の製造量になった。プラントの稼働率も29.4%と経営状況は新規114.0万t

況が悪化。日合協東北は「工事がなければどうしようもない」と窮状を訴える。

前年同期比で見たと合

材の製造は、第1四半期（4～6月）4.1%減、第2四半期（7～9月）5.5%減、第3四半期（10～12月）8.1%減、第4四半期（1～3月）9.6%と通年で低調だった。河川や道路の発注が堅調なのに比べ舗装工事は大幅に減

少。各県では道路損傷が進行し「早期の予算化が必要」（日合協東北）と危機感を募らせる。

製造量の県別内訳は、青

森52.5万t（5.5%増）、岩手51.9万t（増減なし）、宮城88.2万t（10.3%減）、秋田40.3万t（4.7%減）、山形40.7万t（23.9%減）、福島101.0万t（5.2%減）。青森は青森空港や東日本高

速道路会社関連の修繕工事で出荷が増加。山形は前年度に高規格道路の開通が相次ぎ、24年度は反動で大きく減少した。

ここ数年は製造量が急激に落ち込み、24年度には2工場が統廃合や業績不振で閉所した。合材工場の減少は地域の災害対応への影響も懸念される。資材の高騰や運搬費など経費の増加などがプラント経営を圧迫しており「さらなる合材単価への転嫁が必要」（日合協東北連合会）な状況にある。

